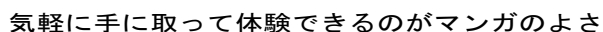


岩日タイムズ

キャプテン翼の
チョークアート

2020東京五輪へ「多様性と調和」

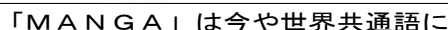
ガの歴史とともに、
社会に与えた影響や、
マンガに描かれた驚



きの必殺技が描かれ、『弱虫ペダル』の自転車に乗ってトレーニング体験もできる。サッカーの遠藤保仁選手や、プロ野球の坂本勇人選手など、ヒーローに憧れて競技を始めたエピソードや、有名なセリフなど、360度見渡す限りパノラマ展示。また、近年パラスポーツを題材としたマンガ・アニメも多くなり、その実態を紹介。そして、日本から生まれたマンガという文化が、世界にインパクトを与え、人氣を拡大してきた影響力を紹介している。

パソニヅが多様性推進活動に取り組む

今回のイベントは、2020東京オリンピック・パラリンピックのワールドワイドパートナーであるパナソニックが、「Diversity & Inclusion」の一環として開催されたものだ。つまり、多彩な人々が、一人ひとりの違いをお互いが認め合い、それぞれが活躍できるような社会を目指すというものだ。パナソニックによ



「アライになろう」
をスローガンに、LG
BTなど性的マイノリ
ティの理解者を増やす。



れば、障がい者の雇用促進や、女性活躍推進のための研修や人材育成に積極的に取り組んでおり、近年では、LGBTへの理解や企業における取り組みにおいて4年連続で最高評価を獲得しているという。5月には、プライドハウス東京の協力のもと、映画「カランコエの花」を鑑賞し、感じたことや気づいたことを話し合うワークショップを実施し、高校生や大学生が参加した。

多様性推進活動を社内外に広め、共生社会実現のため、今後もさまざまなイベントを企画している。

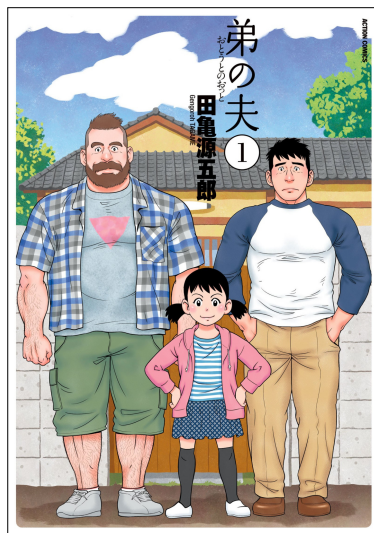
マンガで「未知なる価値観」学ぶ トークセッションを終えて

私たちが生まれてから身近に存在するマンガ。今やマンガは、日本を代表する文化として世界に認知され、世界共通語と言っても過言ではない。そのマンガの特徴でもあるインパクトのある描写、視覚的表現は直接読者に訴えかけるように様々な感情をもたら

してくれる。
しかし、今回の目的はそれだけにとどまらない。マンガを通して「未知なる世界」への距離を縮め、「新しい価値観」に触れることが目的である。この「未知なる価値観」というのは、人種、宗教、文化、障がいの有無、そして今回のイベ



右から『弟の夫』の作者田亀さんとニコルさん



ドラマ化され話題に

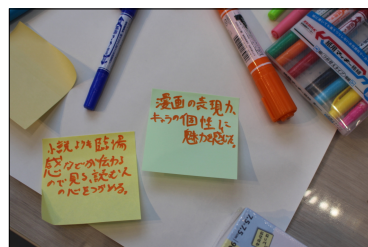
トで最も注目すべき「ジェンダー」などがある。
「LGBT」という言葉を聞いたことがあるだろうか。レズビアン（Lesbian、女性同性愛者）、ゲイ（Gay、男性同性愛者）、バイセクシュアル（Bisexual、両性愛者）、トランスジェンダー（Transgender、出生時に診断された性と自認する性の不一致）の頭文字をとった単語で、セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の一部の人々の総称。少数者といっても、電通ダイバーシティ・ラボによると日本の人口の約8.9%がこの「LGBT」に該当する（2018年）という調査もあ

る。最近になって都市部を中心に広まってきたものの、地方や高齢者にはまだ浸透していないようだ。
マンガには
パワーがある
9月7日、「マンガのちから」トークセッションに参加した。今回のトークセッションは、我々が親しみのあるマンガ、その魅力を通して多



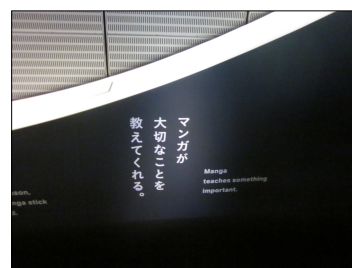
る。最近になって都市部を中心に広まってきたものの、地方や高齢者にはまだ浸透していないようだ。
マンガには
パワーがある
9月7日、「マンガのちから」トークセッションに参加した。今回のトークセッションは、我々が親しみのあるマンガ、その魅力を通して多

様な価値観を理解していくものである。
ゲストは、イギリスの大英博物館で「マンガ展」を企画したニコル・クーリッジ・ルマニエールさんと、漫画『弟の夫』の作者である田亀源五郎さん。
ニコルさんは「マンガには、パワーがある。楽しいことばかりでなく、つらいことでも感じたり、体験することができ



気づいたことを書き込む

田亀さんは「マンガは気軽に手に取って体験できるカジュアルな部分の魅力であり、かつ最大のメリットである」として「私たちはまず知ること、学ぶこと、そして学んだことをお互いに語り合う事が大切。来年に迫った東京オリンピックを迎えるにあたり、我々はダイバーシティを互いに認め合い「LGBT」についても、子どもからお年寄りまで、楽しみながら学ぶことができる「マンガのちから」を活用すること



これまで男尊女卑社会だった日本にとって、性は男性、女性が多かり前とされてきた。LGBTも少しずつ認知されてきているもの、昨今、ある国会議員が「LGBTは生産性がない」とSNSに書き込み炎上。正直憤りを隠せないが、実際に未だ差別や偏見はこの日本の社会に深く根付いている。
同性婚など、LGBTが欧米を中心に広まりつつあるのは事実だが、世界一ジェンダーに関して寛容なのは、タイなのである。タイには性別が18種類もあり、LGBTの最前線といっても過言ではない。ちなみに、該当する人間が増えたのではなく、ただオープンになっただけである。当事者に対するジェンダーの差別や偏見の問題が、日本でも一刻も早く解消されれば良いと願うばかりである。（永井）

編集後記